

海外活動報告

特別研究 南アジア仏教遺跡の保存整備に関する基礎的調査研究

南アジアに多数残る仏教遺跡の保存整備に協力し、文化財保護の面での国際協力に寄与しようと始まった当事業であるが、本年度も昨年度に引き続き、仏教発祥の地インドを対象に行なった。インドでの調査はインド考古局の協力の下、石窟寺院を中心に、多数の仏教・ヒンドゥー教遺跡、博物館等を訪れ、遺跡の現状、保存整備の手法・課題等を調査した。(大脇潔・内田昭人・館野和己)

ニューデリー・デリー城の修復工事

タイにおける史跡の保全整備に関する研究 当研究所と東京大学工学部都市工学研究室およびタイ国チュラロンコン大学との共同研究として行われた「タイ国北部における大規模史跡の保全整備を中心とした地域計画に関する研究」の現地調査に上野と高瀬が参加した。本研究は大規模な史跡の保全整備を周辺の都市・地域を含んだ広域的な地域発展計画の中で位置づけるための計画手法を確立することを目的としている。三か年継続の調査であり第二年次である本年度の調査のうち、我々はスコータイ王朝の首都スコータイを中心としてこれに隣接する北部タイの都市遺跡、寺院遺跡の保存整備状況を把握する調査を分担した。スコータイはタイ政府が1977~88年の間にユネスコなどの援助を受けて歴史公園として復原整備した遺跡である。寺院跡を中心とする遺跡中核部の復原整備が充実している反面、王宮・居住地区・城壁・城門・堀などの遺跡がなおざりにされているのが目立った。しかし、ラテライトやレンガを構造体とする遺構の復原とそれらを区画する堀や池、周囲の芝生や植栽などによって構成された遺跡全体の景観形成は配慮が行き届いていた。また、復原整備の内容を記録した報告書の刊行はされていないようであったが、公園内にある図書館に整備前の写真が相当数保管されていることを確認し得たのは収穫であった。

(高瀬要一)

シンポジウム「変化の時代における歴史的都市の保護」 1991の初夏、カナダ・ケベックにおいて世界遺産として保護されている世界の歴史的都市があつまり、町並みの保護事業を紹介し、問題点を交換した。各地は保存事業を推進しているものの、観光や新規の建設との整合性を模索している。各地の事情が異なるので、必ずしも共通の理解は得にくく、具体的な解決策を共有するのも困難である。しかし、大きい原則はやはり共通であり、交流は意義深い。シンポジウムではケベック宣言を発し、交流の継続、共通の問題は共同して解決、個々の問題は各地で解決、を合意した。世界遺産都市のネットワークを確立し、日常的な交流、情報の交換をする体制を固めた。参加当時、日本は世界遺産条約を批准しておらず、私はオブザーバーで参加したが、1992年夏に日本は条約を批准した。

(上野邦一)